

令和8年度 出前講座の概要



- 「対象」の略称
教委…市町教育委員会、幼…幼稚園・認定こども園・特別支援学校幼稚部
小…小学校・特別支援学校小学部、中…中学校・中等教育学校前期課程・特別支援学校中学部
高…高等学校・中等教育学校後期課程・特別支援学校高等部
研究委員会…「幼・小・中・高」の教職員が所属する各研究委員会及び学校事務職員部

講座1 組織的教育力を高める学校運営・人材育成		講義 60分					
学校の組織的教育力を高めるには、教職員間の学び合いや支え合い、協働する力が不可欠です。また、教職員一人一人が学校運営に参画し、学校改善を図る取組も必要です。講座では、組織的教育力を高め、学校運営に生かす学校組織マネジメントの具体的な方策やこれからの人材育成の在り方について説明します。							
講座内容		対象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	教職員の協働性を高める取組と管理職の役割	○					○
b	コーチングを生かした人材育成・同僚性の向上	○		○	○	○	○

○ aは、管理職を対象とした講座です。bは、管理職又は学校を対象とした講座です。

講座2 資質・能力を高める校内研修		講義・演習 90分					
「令和の日本型教育」を実現するためには、子どもたちの学び（授業観、学習観）の転換とともに教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要があります。教師自身が対話を通して課題を明らかにするとともに、探究的に学び、一人一人の授業改善につなげることができるよう、新しい校内研修の在り方を提案します。							
講座内容		対象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	資質・能力を高める校内研修の在り方	○		○	○	○	○
b	「指標確認シート」を活用した校内研修	○		○	○	○	○

講座3 公用文の書き方「基礎・基本」 一用字用語を中心に		講義・演習 60分					
公用文の書き方に不安を感じている教員を対象に、文章の書き方の基礎と、公用文における表記（特に用字用語）の習得を目的とした研修を行います。							
講座内容		対象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	文章表記の基礎及び公用文における用字用語の習得	○		○	○	○	

講座4 確かな学びをつくる授業づくり 一国語一		講義・演習 60～90分					
学習指導要領で示された目標や内容を踏まえた国語科の授業づくりについて考えます。子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのよりよい指導や、指導と評価の一体化を目指した学習評価の在り方について、講義や演習を通して理解を深めます。							
講座内容		対象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善			○	○	○	○
b	国語科の授業づくりと評価の在り方			○	○	○	○

講座5		確かな学びをつくる授業づくり ー社会、地理歴史・公民ー		講義 60～90分			
学習指導要領に示された目標や内容を踏まえながら、社会科、地理歴史・公民科における、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善や、思考力・判断力・表現力等を育む授業の在り方について考えます。							
講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○		○	○	○	○
b	思考力・判断力・表現力等を育む授業の工夫	○		○	○	○	○

講座6		地域素材を活用した学習指導の工夫 ー社会、地理歴史・公民ー					講義 60～90分	
学習指導要領に示された目標や内容を踏まえながら、愛媛県内の身近な地域を事例とした、地図・地形図等を活用する教材や授業改善の工夫について研修します。								
講座内容		対 象						
		教委	幼	小	中	高	研究委員	
a	技能を身に付け、思考力・判断力・表現力等を育む授業の工夫	○		○	○	○	○	

講座7		確かな学びをつくる授業づくり ー算数、数学ー		講義 60～90分			
学習指導要領で示された目標や内容を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や、思考力・判断力・表現力等を育む授業の在り方について考えます。							
講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善			○	○	○	○
b	思考力・判断力・表現力等を育む授業の工夫			○	○	○	○

講座8		確かな学びをつくる授業づくり ー理科ー					講義 60～90分		
学習指導要領で示された目標や内容を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や、実感を伴った理解を図るための指導法について、観察、実験を通して考えます。									
講座内容		対 象							
		教委	幼	小	中	高	研究委員		
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	○		○	○	○	○		
b	実感を伴った理解を図るための観察、実験の進め方			○	○	○	○		

○ 実験・実習については、原則として学校の実験器具や材料を使わせていただきますが、学校にないものは本センターから持参することも可能です。

講座9		薬品の適切な管理及び安全な理科実験の指導					講義 60～90分	
薬品管理に関する法令等に基づいた、学校における適切な薬品管理の在り方についての研修を行います。また、理科実験における事故等を防止するために、安全管理についての知識を身に付け、指導力の向上も図ります。								
講座内容		対 象						
		教委	幼	小	中	高	研究委員	
a	薬品の適切な管理及び安全な理科実験の指導	○		○	○	○	○	

講座10 生活科の授業づくり

講義・演習 60～90分

学習指導要領に示された生活科の目標や内容を踏まえ、児童一人一人の多様な学びや育ちを読み取り、よさを発揮できるような学習指導の進め方や評価の在り方について考えます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善			○			○
b	多様な学びを生み出す遊びの工夫			○			○

講座11 幼児教育と小学校教育の連携・接続

講義・演習 60～90分

幼児教育と小学校教育を円滑に接続することは重要です。「幼保小架け橋プログラム」の基本的な考え方や幼小接続に向けたカリキュラム作成のポイントについて解説します。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	豊かな連携・接続の在り方と架け橋プログラムの基本的な考え方	○	○	○			○

講座12 子どもの体力向上と体育・保健体育授業の基礎・基本

講義 60～90分

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果を踏まえた、子どもの体力向上に向けた取組について解説します。体育・保健体育授業の基礎・基本では、学習指導要領を踏まえた授業づくりのポイント、学習評価、授業中の事故防止等について、基礎的・基本的な内容から解説します。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	子どもの体力向上に向けた取組			○	○	○	○
b	体育授業の基礎・基本			○	○	○	○

講座13 ミシン製作における基礎的・基本的な技能

説明・実習 90～120分

ミシンを用いた製作実習を通して、基礎的・基本的な知識や技能について研修し、製作実習の指導力向上を目指します。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	ミシンを用いた生活を豊かにするための布を用いた製作			○			○

○ 会場校等のミシンや裁縫道具、材料を使用させていただきます。

講座14 確かな学びをつくる授業づくり
— 家庭 —

講義 60～90分

学習指導要領で示された目標や内容を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や、思考力・判断力・表現力等を育む家庭、技術・家庭（家庭分野）の授業づくり、学習評価の在り方について考えます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善			○	○	○	○
b	思考力・判断力・表現力等を育む授業づくり			○	○	○	○

○ a、bを組み合わせで行うことも可能です。

講座15		確かな学びをつくる授業づくり ー外国語活動・外国語ー					講義 60～90分		
主体的・対話的で深い学びを意識し、中・高等学校における外国語教育につながる小学校外国語活動・外国語科の授業づくりについて考えます。また、学習指導要領で示された目標や内容を踏まえた学習評価の在り方について考えます。									
講座内容		対 象							
		教委	幼	小	中	高	研究委員会		
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善			○			○		
b	外国語活動・外国語科の授業づくりと評価の在り方			○			○		

○ a、bを組み合わせることも可能です。

講座16	確かな学びをつくる授業づくり ー外国語（英語）ー	講義 60～90分					
		主体的・対話的で深い学びを意識した外国語科の授業づくりについて考えます。また、小・中・高等学校の学びの連続性を意識した授業づくりや評価の在り方について考えます。					
講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善				○	○	○
b	学びの連続性を意識した授業づくりと評価の在り方				○	○	○

○ a、bを組み合わせることも可能です。

講座17		確かな学びをつくる授業づくり ー図画工作・美術ー					講義・演習 60～90分					
学習指導要領で示された目標や内容を踏まえた図画工作科・美術科の授業づくりについて考えます。子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのよりよい指導の在り方について、講義や演習を通して理解を深めます。												
講 座 内 容							対 象					
							教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善								○	○		
b	図画工作科・美術科の授業づくりと評価の在り方								○	○		

講座18 総合的な学習（探究）の時間の在り方		講義・演習 60～90分					
学習指導要領で示された目標を読み解き、児童生徒に身に付けさせる力は何かを考えます。また問題解決的な活動が発展的に繰り返される「探究的な学習」や、多様な考え方を持つ他者と関わり合う「協働的な学習」を進めるための学習指導の在り方について研修します。							
講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	探究的、協働的な学習を進めるための学習指導の在り方			○	○	○	○
b	全体計画・指導計画の作成と活用			○	○	○	○

○ bについては、学校の全体計画・年間指導計画等の提出が必要です。

○ a、bを組み合わせることも可能です。

講座19		多文化共生の視点に立った外国人児童生徒等への支援の在り方				講義・演習 60～90分	
増加傾向にある外国人児童生徒等の現状を理解するとともに、状況や段階に応じた支援の在り方について研修します。学校における多文化共生の文化づくりについても考えます。							
講座内容		対 象					研究委員会
		教委	幼	小	中	高	
a	外国人児童生徒等教育の現状と課題			○	○	○	
b	日本語指導の基礎			○	○	○	

○ 外国人児童生徒等の在籍の有無は問いません。

講座20 今、求められる道徳教育の具体的な展開		講義・演習 60～90分					
今、求められている道徳教育の在り方について基本的な内容の共通理解を図ります。また、道徳科の学習指導及び評価のポイントを押さえ、一人一人の教師が自信をもって授業に臨めるようになることを目指します。							
講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	今、求められる道徳教育の具体的な展開（学習指導を中心に）	○		○	○		○
b	今、求められる道徳教育の具体的な展開（学習評価を中心に）	○		○	○		○
c	今、求められる道徳教育の具体的な展開（学習指導と評価）	○		○	○		○

講座21 道徳科の授業づくり		演習 90分					
「考え、議論する道徳」の実現を目指して、よりよい授業づくりに向けたお手伝いをします。教材を様々な角度から分析し、効果的な発問を考える演習を通して授業力の向上を目指します。							
講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員
a	道徳科の授業づくり			○	○		○

講座22		道徳科の授業の充実と改善のために (実施回数2～3回)				講義等 60～90分			
道徳教育の意義及び、道徳科の指導方法についての理解を深めるとともに、提案授業を指導主事が参観したり、指導案審議や研究協議に指導主事が参加したりすることを通して、道徳科の疑問や相談にお答えします。実際の授業を分析しながら道徳科の授業の充実と改善を目指します。									
講座内容		対 象							
		教委	幼	小	中	高	研究委員		
a	道徳科の授業の充実と改善のために（実施回数2～3回）			○	○				

○ 内容、実施時期は相談の上決定いたします。実施回数については、学校の実情に合わせて相談に応じます。
○ 授業を扱う際は、1週間前までに学習指導案の提出をお願いします。

講座23		これからのキャリア教育					講義・演習 60～90分				
これからのキャリア教育で求められていることやキャリア教育の具体的な在り方について学びます。											
講 座 内 容		対 象									
		教委	幼	小	中	高	研究委員				
a	今後、求められるキャリア教育の在り方	○		○	○		○				

講座24 人権・同和教育の在り方		講義・演習 60～90分					改編
「第三次とりまとめ」「人権・同和教育指導の手引（人権教育課）」等を基にして、人権・同和教育の指導の在り方について理解を深める研修を行います。また、同和問題（部落問題）学習について、基本的な事項を中心に学んでいただき、効果的な指導方法を考える研修を行います。							
講 座 内 容		対 象					研究委員会
		教委	幼	小	中	高	
a	学校で求められる人権・同和教育		○	○	○	○	○
b	同和問題（部落問題）学習の基礎・基本			○	○	○	○
c	学校全体で取り組む人権・同和教育	○					

講座25 児童生徒のための情報モラル教育		講義 60～90分 (ライブ配信 30～60分)					
インターネットやスマートフォン、タブレット端末の利用の現状や問題点について理解し、教材等を用いて、情報活用能力の重要な要素である情報モラル（デジタル・シティズンシップ）を育むための具体的な指導法について研修をします。							
講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	情報モラル（デジタル・シティズンシップ）教育の進め方	○	○	○	○	○	○

○ Microsoft PowerPointを使用します。

○ プロジェクタとスクリーン又はモニター等、講師のパソコンの画面を映し出す環境があることが望ましいです。

講座26 教職員のための情報セキュリティ		講義 60～90分 (ライブ配信 30～60分)						改編
情報漏えいや不正アクセスなど直近の事件・事故例から、情報セキュリティ対策を検討します。また、授業や情報発信の際に必要な著作権法の基礎や、デジタルコンテンツの適切な利用方法について研修をします。								
講 座 内 容		対 象						
		教委	幼	小	中	高	研究委員会	
a	事件・事故例に基づく情報セキュリティの検討と対策	○	○	○	○	○	○	
b	学校等における著作権	○	○	○	○	○	○	

○ Microsoft PowerPointを使用します。

○ プロジェクタとスクリーン又はモニター等、講師のパソコンの画面を映し出す環境があることが望ましいです。

講座27 学校ホームページと情報発信		講義・実習 60～90分					
CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）を利用した学校ホームページの基本操作について実習を行い、家庭や地域等に分かりやすく情報発信するためのポイントや、著作権・肖像権の適切な取扱いについて研修をします。							
講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	ホームページ等を活用した学校における情報発信	○		○	○	○	○

○ インターネットを使用しますので、講師が使用するパソコンをご準備ください。

○ 実習を伴うので、受講者一人に対してパソコンが1台あることが望ましいです。

○ プロジェクタとスクリーン又はモニター等、講師のパソコンの画面を映し出す環境があることが望ましいです。

講座28 校務におけるICT活用		講義・実習 60～120分						改編
校務に必要な文書作成や表計算、プレゼンテーションやマルチメディア作成、クラウドサービスの活用方法を学び、ICT活用指導力や校務の情報化の推進に必要なスキル等の向上を図る研修をします。								
講 座 内 容		対 象						
		教委	幼	小	中	高	研究委員会	
a	Word、Excel、PowerPointの活用	○	○	○	○	○	○	
b	クラウドサービス（Microsoft365、Google for Education等）の活用	○	○	○	○	○	○	

○ インターネットを使用しますので、講師が使用するパソコンをご準備ください（b）。

○ 実習を伴うので、受講者一人に対してパソコンが1台あることが望ましいです。

○ プロジェクタとスクリーン又はモニター等、講師のパソコンの画面を映し出せる環境での実施が望ましいです。

講座29 授業におけるICT活用

講義・実習 60～120分

改編

ICT教育推進ガイドラインに基づき、クラウドサービスや電子黒板の活用について実習を交えながら学び、授業におけるICT活用指導力の向上を図る研修をします。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	資料作成（プレゼンテーション）や電子黒板の活用	○		○	○	○	○
b	クラウドサービス（Microsoft365、Google for Education、ロイロノート等）の活用	○		○	○	○	○

- プレゼンテーションソフトを使用します（a）。
- 電子黒板の内容を希望する場合は、電子黒板を使用します（a）。機種や入っているアプリについて事前にお知らせください。
- インターネットを使用しますので、講師が使用するパソコンをご準備ください（b）。
- 実習を伴うので、受講者一人に対してパソコンが1台あることが望ましいです。
- プロジェクタとスクリーン又はモニター等、講師のパソコンの画面を映し出せる環境での実施が望ましいです。

講座30 小学校におけるプログラミング教育

講義・実習 60～120分

児童のプログラミング的思考の育成を図る小学校プログラミング教育の基本的な考え方や指導法について、講義や実習を通して理解を深める研修をします。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	小学校におけるプログラミング教育	○		○			○

- インターネットを使用しますので、講師が使用するパソコンをご準備ください。
- 実習を伴うので、受講者一人に対してパソコンが1台あることが望ましいです。
- プロジェクタとスクリーン又はモニター等、講師のパソコンの画面を映し出せる環境での実施が望ましいです。

講座31 EILS（エイリス）の活用

講義・実習 60～120分

改編

EILS（エイリス）の基本的な使い方や操作方法等について研修をします。また、日々の授業で活用できるよう、校種や教科等に合わせてEILSで作問する研修をします。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	CBT（端末で受験する試験形式）の活用	○		○	○	○	○
b	PBT（紙と鉛筆で受験する試験形式）の活用	○		○	○	○	○

- インターネットを使用しますので、講師が使用するパソコンをご準備ください。
- ※ PBT（b）では、愛媛スクールネット（ESnet）のネットワーク環境が必要です。
- 実習を伴うので、受講者一人に対してパソコンが1台あることが望ましいです。
- プロジェクタとスクリーン又はモニター等、講師のパソコンの画面を映し出せる環境での実施が望ましいです。

講座32 生成AIの活用

講義・実習 60～120分



新規

学校現場における生成AIの利活用のポイントに基づき、生成AIの基本的な仕組みや利活用する際の留意事項について実習を交えながら学び、ICT活用指導力の向上を図る研修をします。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	学校等における生成AIの活用	○	○	○	○	○	○

- インターネットを使用しますので、講師が使用するパソコンをご準備ください。
- 受講者が使用するアカウント（Microsoft又はGoogle）が必要です。
- 実習を伴うので、受講者一人に対してパソコンが1台あることが望ましいです。
- プロジェクタとスクリーン又はモニター等、講師のパソコンの画面を映し出せる環境での実施が望ましいです。

講座33 いじめの問題の現状と対応

講義・演習 60～90分

いじめの問題の現状を理解するとともに、いじめの問題への対応の在り方について事例を基に研修します。いじめの未然防止や早期対応のための組織的な取組について考えます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	いじめの問題の現状と対応の在り方	○		○	○	○	○

講座34 不登校児童生徒の支援

講義 60～90分

不登校の現状を理解するとともに、状況や段階に応じた支援の在り方について研修します。児童生徒本人への具体的な支援のポイントや保護者との連携について考えます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	不登校児童生徒の支援の在り方	○		○	○	○	○

講座35 学校で行うアンガーマネジメント

講義・演習 60～90分

[改編](#)

怒りの発生のメカニズムを理解し、怒りをコントロールする方法であるアンガーマネジメントについて研修します。怒りを上手にコントロールし、よりよい人間関係を築く方法について考えます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	教職員のためのアンガーマネジメント	○	○	○	○	○	○
b	学級活動で行うアンガーマネジメント	○	○	○	○	○	○

講座36 これだけはおさえない教育相談のポイント

講義・演習 60～90分

本センターで作成した教育相談資料を活用して、児童生徒や保護者の話を聴く際に必要となる、教育相談の基礎的なスキルを学びます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	教育相談の基礎的なスキルの向上に向けて	○	○	○	○	○	○

講座37 コーチングスキルを生かした生徒指導の在り方

講義・演習 60～90分

発達支持的生徒指導の重要性を理解し、児童生徒のやる気や自信を引き出すためのポイント（コーチングスキル等）について学びます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	児童生徒のやる気や自信を引き出すポイント	○		○	○	○	○

講座38 子どもが安心して学び、生活できる学級（ホームルーム）づくり

講義・演習 60～90分

子どもが安心して過ごすことができる学級（ホームルーム）づくりを目指します。児童生徒を理解したり、それに基づいて関わったりする場面で活用できる心理技法や支持的な集団づくりの方法を学びます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	安心感を育む学級経営の在り方	○		○	○	○	○

講座39 学びの芽を育む幼児教育

講義・演習 60～90分

改編

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。講座では、講義・演習を通して、幼児教育の基本について理解を深めます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	○	○	○			○

講座40 幼児の運動遊び

講義・演習 90分

幼児期運動指針を踏まえ、体を使った遊びの楽しさを味わうとともに多様な動きの経験につながる環境設定や指導の工夫について、講義・演習を通して学びます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	多様な動きに親しむ運動遊びの実際	○	○	○			○

講座41 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営・授業づくり

講義・演習 60～90分

改編

多様な教育的ニーズのある子どもがいることを前提とした学級経営や授業づくりについて、研修します。また、演習を通して、具体的な取組について学びます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	特別支援教育の視点を取り入れた学級経営・授業づくり	○		○	○	○	○

○ 特別支援学校のみの場合は、対象外とします。小・中・高等学校と特別支援学校合同の研修の場合は、対象となります。

講座42 特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援

講義・演習 60～90分

疑似体験等の活動を通して子どもの困難さや特性を理解し、つますきに対応した具体的な支援の在り方や合理的配慮の提供について、学びます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	子どもの困難さや特性の理解	○	○	○	○	○	○
b	つますきに対応した具体的な支援の在り方	○	○	○	○	○	○
c	学校における合理的配慮	○	○	○	○	○	○

○ a～cの順に、発展的な内容の講座となります。

○ 特別支援学校のみの場合は、対象外とします。小・中・高等学校と特別支援学校合同の研修の場合は、対象となります。

講座43 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成・活用

講義・演習 60～90分

改編

子どもの実態把握の方法を学び、実態に基づいた個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用について、研修します。個別の指導計画の作成演習を通して、作成の手順を学びます。

講 座 内 容		対 象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	個別の教育支援計画と個別の指導計画の基本的な理解と作成・活用	○	○	○	○	○	○

○ 特別支援学校も対象とします。

訪問オンデマンドライブ配信

講座44知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

講義・演習 60～90分

改編

知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについて、学習指導要領に示された重要事項を踏まえ、具体的な取組について学びます。

講座内容		対象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくりのポイント	○		○	○		○

○ 特別支援学校も対象とします。

訪問オンデマンドライブ配信

講座45子どもの実態把握から指導・支援の手立てへ（実施回数2～3回）

講義・演習 60～90分
指導助言・協議 時間は要相談

改編

児童生徒への組織的、継続的な支援の充実を目指した講座です。講義・演習では、特別な教育的ニーズのある子どもの困難さや特性等について理解し、チームで取り組むためのポイントを学びます。協議では、子どもの実態把握や指導・支援方法、個別の指導計画の作成・活用についての検討、具体的な目標設定、支援内容についての指導助言など、個別事例への対応も可能です。講義や協議を組み合わせ実施します。

講座内容について		対象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	子どもの実態把握から指導・支援の手立てへ（実施回数2～3回）		○	○	○	○	

○ 実施時期、実施時間、内容、実施回数、研修形態は相談の上、決定いたします。
○ 実施回数2回の例として、1回目はライブ配信で全教職員を対象に講義を行い、2回目は訪問して授業参観等の後、関係教職員で協議するなどが考えられます。
○ 通常の学級、特別支援学級を対象とします。特別支援学校は対象外とします。

訪問オンデマンドライブ配信

講座46養護教諭の資質向上

講義・演習 60～90分

時代の変化に対応できる養護教諭を目指し、養護教諭の職務（保健管理・保健教育・健康相談・保健室経営・保健組織活動）について、講義や演習を通して資質向上を図ります。講座の具体的内容については、申込者との相談により決定します。

講座内容		対象					
		教委	幼	小	中	高	研究委員会
a	養護教諭の資質向上（保健管理・保健教育・健康相談・保健室経営・保健組織活動）	○					○

○ 養護教諭を対象とした講座です。